

定動詞

高田 友

英語に八品詞有之、「名詞・代名詞・動詞・形容詞・副詞・接續詞・前置詞・間投詞」、此れにて候。

「助動詞はいづこにありや」と問ひなたまひそ。八品詞とは大なる項目を立てて、微細なる品詞を包含致し候所にて、助動詞は動詞に含まる。而して、「關係詞」も「關係代名詞」は「代名詞」、「關係副詞」は「副詞」に分類せられ候。助動詞、關係詞の如き補助的なる品詞分類には、それがし「細品詞」なる名を與へて候。

a, the 冠詞」も細品詞なり。八品詞にてはいづこに納まると訝りたまひ候歟。冠詞の働きを攷ふれば、必定いづこに定まるべしやと言ふに及ばず候。名詞を修飾して候へば、紛るる方なき形容詞に御座候。

借、「茲許明日はそこもとを訪づるを得む」を英語にて言はむと欲し候に、I will can visit you tomorrow. とするは明白なる過ちなり。いづこ過てると問へば、中學生なりとも、「will」の後に can を置くを得ざればなり」と答ふべく候。しからは更に借問せむ。「何ゆゑに will の後に can を置くは不可なりや」。中學生はさておき、高校生なれば、「助動詞の後に助動詞を置くを得ざればなり」と答ふべし。

然則、敢へてまた借問せむ。「何ゆゑに助動詞の後に助動詞を置くは不可なりや」と。於是歟、怎に優れたる高校生なりとも、返答に窮するに相違無御座候。

閑話休題

英語に於ては、動詞は五つの形態を取る。教科書には原形・現在・過去・分詞・動名詞とあり。然れども、それがし倨傲の罪を憚らずして之を捻り、「現在・過去／原形・-ing 形／過去分詞」と分類仕り候。三段階に分かるるなり。

「現在・過去」はこれなくば、文成立せず。文を成立せしむる爲に必要な存在なり。「原形（不定詞）」および「-ing 形」は動詞を名詞・形容詞・副詞として用ゐむが爲に存し、「過去分詞」は「受身および完了」の意を表はさむがために存するなり。

原形（不定詞）に「名詞用法・形容詞用法・副詞用法」あるが如く、-ing 形にも三用法あり。-ing 形の名詞用法を「動名詞」、形容詞用法(Look at that running boy.) と副詞用法を「現在分詞」と謂ひ、就中、副詞用法を特に「分詞構文」とは稱へて候。

一つの文(節)には、必ず「現在または過去」の動詞一つあらずんばあらざるなり。I went there and found the tree. (行き行きて該樹木を見出したり)の如く、主節にその二つあるは「重文」と申し候て、さは格別の文なり。

I know you are stupid.の如きは、主節の定動詞に think あり、從屬節の定動詞に are あり。斯くの如きを「複文」と申し候。

やび、 I will go to study abroad next year. (來年は留學せむ)なる文に著目せられ候へかし。

この will は動詞の五つの形態のうち、いづれなりと思ひたまふや。

「未來なり」と言ひたまふなかれ。五つの形態に「未來」なるはなし。

その意「現在」にはあらねば、「原形」なりと思ひたまふや。

既に申したるが如く、文には必ず一つ、「現在または過去」の動詞あり。然則、この will は「現在」ならずんばあらざるなり。

この、文中に必ず一つある「現在または過去」の動詞を「定動詞(finite verb)」とぞ申すなる。「主動詞(main verb)」と呼ぶ向きも有之候。「述語動詞」も類語なれど、やや異なる所あり。

なほ、「現在・過去／原形・ing 形／過去分詞」のうち、「現在・過去」を定形(定動詞)、餘の三を「非定形」(準動詞)、その中にて、特に「原形」を「不定形」(不定詞)とぞ言ふなる。

吃驚したまふなかれ。will の現在は will、過去は would、而つて、will には、原形・ing 形・過去分詞は存在せざるなり。否、can, must, may 杯、凡そ助動詞には現在と過去のみありて、準動詞(原形・ing 形／過去分詞)は存せず候。

willing なる形を見たる覺えあり、とおほせたまふか。さは、助動詞の will ならで、動詞の will (望む・欲す・意圖す)の-ing 形なり。

さればこそ(原形存せざるがゆゑに)、I will can-----とは言ふを得ず、I will be able to-----とは言ひて候。

I will can-----と言ふを得ざるの所以は、「助動詞(can)の直後に來る動詞は原形ならざるを得ず。而して、助動詞(can)には原形存せざるのゆゑを以て、他の助動詞(will)の直後に來るを得ざればなり」と解すべし。

「時制の一致」に關して、高校生の屢々過てる問題あり。

He said, * I will marry her.* を間接話法に變換せよと言はるれば、並みの成績の者なり
とて、 He said that he would marry her. と答ふるを得て候。

然れども、 He has said, * I will marry her.* を間接話法に變換致し候はば如何ならむ。
will を would に替ふべしや、 はたまた、 will のままにて可なりや。

時制の一致とは、「主節が過去の場合には從屬節も過去たるべし」と言はるれど、此れ
が文にては、主節の動詞は現在完了たり。されば、從屬節の動詞も現在完了なるべしや。
甚だ混亂する所に候。

さは、明治以來の英文法學者の咎なり。

英語に於ては、「現在完了時制」なる用語御座候。

「時制の一致」とは、「主節の過去時制なる時は、從屬節も過去時制たるべし」と言
ふ。然らば、主節現在完了の場合は、如何なるべく候矣。從屬節も現在完了にすべしとい
ふか。will を現在完了にせよとは無理難題の類なり。豈整然と説く所ありと言ふべけむ
や。

一方、獨逸語・佛蘭西語文法にては、「時制」の外に「時稱」なる概念有之、この理に
隨へば、現在完了は「現在時制の完了時稱」なり。さらに、will は「現在時制の未來時稱
(現在未來)」、「would は「過去時制の未來時稱(過去未來)」といふもあり。それぞれ、
「現在より見たる未來」「過去より見たる未來」の謂ひなり。

すなはち、「未來」「現在完了」「現在進行形」杯は「時稱」の名にて、「時制」は悉く
「現在」に屬して候。

かかる獨佛語・佛蘭西語の文法體系を導入致し候へば、英語の時制の一致また手易く解
するを得べく候。

即ち、 He has said, * I will marry her.* を間接話法に直せば、 He has said he will marry
her.となりて候。 would にあらば will なり。主節の has said が現在時制なれば、從屬節も
現在時制の will を用ゐて候。

今一たび別儀の例文を用ゐて定義を示し候はむ。「現在完了とは現在時制の完了時稱」
に候とは知りたまへ。

① He told me that he would have finished homework when I visited him this evening. の
would have finished は「過去時制の未來完了時稱」なり。

因みに、上の文を直接話法に直せば、 ② He said to me, * I will have finished homework
when you visit me this evening.* となり。

なほ、①の文にて、when I visited の visited を訝いぶかしむ方々可有これあるべくさうや之候へ共、②の文と比較せらるれば、visit の時制の一致にて visited と變じたる、些かも異となすべき儀は無之候。

「八品詞」「動詞の五つの形」「時制の一致」に關して、篤と御考察あらせたまへ。

(令和五年三月十五日受附)